

事業概要	浅間北麓の地域資源の価値化とキャンプ場等の場づくりを軸にした循環型地域未来創造事業
部署	百年センター
所在地	〒377-1412 群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢1924-1360
連絡先	(電話番号)0279-84-6633 (E-mail)tachimori-y@kitamoc.com
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	<p>活火山浅間山の麓「北軽井沢」は、国土の7割を占める中山間地域に属し、放置林や耕作放棄地、空き家など、社会が抱える様々な課題が表面化しています。しかし、森林資源に恵まれた山林と、仕事も暮らしも隔てることなく、「働くことが生きること」として繋がっていた、かつての中山間地域の集落では、自然と人の合理的な関係がつけられていました。</p> <p>地域の自然という制約に従いながら、自然と人、そして人と人の関係をつくる。その相互作用(循環)によって活力(新産業)を生み出し、そこに関わる人たちが豊かさを感じることができる地域、そしてその未来を創ります。</p>

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション

分野 観光ビジネス／農林水産業・地場産品／サーキュラーエコノミー／健康・福祉

地域山林(約240ha)を2019年に取得し、浅間高原北麓の特徴である豊富な広葉樹を中心に自伐型林業を展開。自社林産加工場では、伐った木材を計測・仕分け・製材・乾燥・仕上げ加工を行い、薪や建材、家具材として最終商品化が可能です。群馬県北西部の有休山林や耕作放棄地では植生循環を促す養蜂にも取り組み、地元農家や地域企業との協業で蜂蜜加工品の企画販売を行っています。価値化された地域資源は、年間10万人が訪れる自社キャンプ場「北軽井沢スウィートグラス」で主に活用。企業をはじめとした様々なコミュニティが活力を再生するための場づくり、をテーマにした宿泊型ミーティング施設「TAKIVIVA(タキビバ)」では、自然を媒介することで明確になる人と人の関係づくりにも取り組み、同じ質の志をもつ他地域・他分野との緩やかな連帯を果たしながら、日本の中山間地域における産業モデルの構築を目指しています。

<循環型地域未来創造事業>



ローカルSDGsの実現  
に貢献できるソリュー  
ション

<サステナブルな自伐型林業>



自社山林を中心に、寒冷地で育った良質なナラやカラマツを中心に伐採

<地産材を活用した薪製造事業>



キャンプ場や薪ストーブ、石窯等で活躍する薪の高効率製造

ローカルSDGsの実現  
に貢献できるソリュー  
ション

<小規模多機能型製材所／山と繋がった暮らしや集落のあり方を考える拠点>



木材を計測・仕分け・製材・乾燥・仕上げ加工を行い、薪や建材、家具材として最終商品化が可能

<薪ボイラー式低温除湿乾燥機／広葉樹乾燥技術>



自社開発した廃材・端材を利用する薪ボイラー式乾燥機を活用し、色艶・香りの残る乾燥材を製造

ローカルSDGsの実現  
に貢献できるソリュー  
ション

＜新しいカタチでの森林の価値化／養蜂事業を軸にした6次化＞



有休山林や耕作放棄地を活用する養蜂

＜自然と人のあるべき関係性を基軸にした場づくり／フィールド事業＞



多種多様な宿泊施設を備えた自社キャンプ場「北軽井沢スウィートグラス」

ローカルSDGsの実現  
に貢献できるソリュー  
ション

＜地域資源を活かした遊休資産の活用／コミュニティの熱量を高める仕掛け＞



宿泊型ミーティング施設「TAKIVIVA(タキビバ)」

URL

Web : <https://kitamoc.com/>  
キャンプ場「北軽井沢スイートグラス」: <https://sweetgrass.jp/>  
焚火に集うミーティング施設「TAKIVIVA(タキビバ)」: <https://takiviva.net/>  
地域資源活用事業「あさまのぶんぶん」: <https://asabun.com/>  
養蜂「百蜜」: <https://luomu.thebase.in/age-verification>

上記ソリューションを  
提供できる地域につ  
いて

群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢から半径35km圏内

## 自者の特徴

きたもっくははじめに、北軽井沢の自然の魅力を多くの人に伝えるため1994年にキャンプ場「北軽井沢スウィートグラス」をオープンしました。荒涼の大地に木を植えるところから始まった場づくりです。キャンプといえば夏という固定概念を払拭し、寒い冬だからこそその居心地の良さを提案したいと全宿泊施設に薪ストーブを設置。これに伴い、地域への薪ストーブ施工事業もスタートしました。2015年からは自社で地域材から薪の製造を開始。そして、2019年には地域山林約240haを取得し自伐型林業に着手。地域資源の活用を本格化させました。

日本の中山間地域の課題は、1,2,3次それぞれの産業が分断されていること、特に3次が機能不全なことだと私達は考えています。山からキャンプ場まで一気通貫する循環の仕組みは、キャンプ場という3次産業からはじまった必然のストーリーのうえにあります。それが、きたもっくが体現している6次化のカタチです。

2021年度のグッドデザイン賞において、事業そのものが『グッドデザイン金賞』を受賞。2022年には長野原町と包括連携協定を締結し、自伐型林業を核にした農林福連携の実体化を目指しています。



## SDGs経営に向けた自者の課題や悩み

・地産木材・蜂蜜の地域内活用の促進